

Fuつ興グルメ1番競う 気仙沼



来場者が「ブラックめかカレー」など仮設商店街の自慢の料理を味わった

東日本大震災の被災地の仮設商店街などが創作料理を競う「復興グルメF1大会」が19日、気仙沼市南町の仮設商店街「南町紫市場」であった。各地の自慢の味を楽しもうと大勢の人出でにぎわった。

岩手、宮城、福島3県の10団体が各500食分を用意した。来場者は1品300円で、メカジキのフライを使った南町紫市場の「ブラックめかカレー」や南相馬市・かしま福幸商店街の「福島特産 桃クレープ」などを味わい、好みの味に投票。一位にはめかカレーが輝いた。めかカレーを食べた一関市の自営業今野真紀さん(40)は「フライは食感がカリカリ。カレーもスパイシーで夏らしい味を楽しめた」と笑顔を見せた。

大会はNPO法人アムダ(岡山市)や被災商店街が2013年1月に始め、開催地を変えて10回目を迎えた。初回から出店する陸前高田市の飲食店経営大田明成さん(48)は「お互いさまの精神で、開催地にぎわいづくりに協力し合ってきた」と話す。

実行委員長を務めた南町紫市場の坂本正人さん(58)は「みんな自分の商店街の復興で精いっぱいだが、連携することで各地の取り組みが見えて参考になった。商店街が再建しても大会を続けたい」と語った。